

【「どうしても1番でなければいけないんでしょうか？」…0番小ネジ】

これに似た言葉を発した大臣もいましたが、ネジの世界では0番も、場合によっては00番も存在します。そして、1番でなければいけない理由も立派に存在するのです。

それはネジの中でも小ネジの世界のお話です。普通ネジの世界で0番小ネジといえば日本写真工業会団体規格としてJCIS 10-70に定められた規格を用います。JIS規格ではないので注意してください。さて、では0番という表現はどこから来たのでしょうか。これは、ややこしい話ですが、ドライバからなんです。ドライバの種類にはH形・S形はJIS B 4633で規定されています。その種類は1番から4番です。そして、付属書に目を移すと、ここにありました。0から4まであります。現場ではマイクロ・小ドラ・中ドラ・大ドラなどドライバを大中小で呼んだりすることもあります。勿論マイクロが0番です。このサイズは普通ドライバの柄に書かれていますので、覚えておくと次に購入する時に便利ですが安いドライバには書かれていないことが多いようです。使用する上で大切なのは、ネジとドライバを正しい組合せで使うことが大切です。例えば、Z形のビスにはH形用ドライバの1番小さいのが使える事がありますがお勧めできません。なぜならH形ドライバの先端とZ形ドライバの先端は似ていますが実際の形状は異なっているのです。ねじとドライバの組合せが正しくないと、

① ドライバの力が伝わらず、適正な締付トルクが得られません

② 十字の穴部を傷付け、なめ、バリが発生し、ドライバが食いつかなくなります。

このような不具合から、製品の品質の問題に起因したり、ドライバ・ネジ双方の不良が出て、余分な作業が必要になります。一般家庭でプラスのドライバを揃えたとしたら、一番使用頻度が高いのは2番でしょう。その前後の1番と3番があればたいいものは締結できます。眼鏡のネジが緩んだら眼鏡屋へ行けば無料で締めてくれるでしょう。実際にネジを回すときに1番か2番のどちらが合うかわからない場合は、大きい2番のドライバを当てて入れればそのまま使い、入らなければ1番に取替えるとネジをつぶさずに締めれます。電化製品のネジは1番が多いです。だから、表題の答えは電化製品等では「1番でなければならない」のです。一方、ドアの蝶番などは3番が多いので「3番でなければならない」のです。マイクロネジはJCISでは規格番号JCIS10-70で精密機器用十字穴付き小ネジ(0番小ねじ)と言う名称で記述されます。一般ネジとの違いは、頭部、特に高さが小さい事で、1種で約50%、3種で30%低くなります。1種と3種には、なべと皿頭がありますが、大きい方が3種で、2種はなべ頭のみで、頭部の外径が3種、高さが1種に準じています。

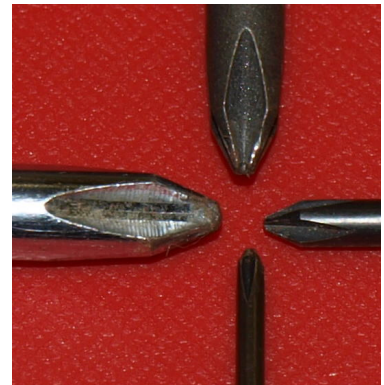
規格ではM1.4の0番からですが、それより小さいものは各社の独自の規格として00番もあります。呼称は、マイクロネジ・精密小ネジ・0番小ネジ・眼鏡ネジ・カメラネジ等の呼び方があります。



眼鏡のネジ
(0番小ネジ)



蝶番のネジ



0番～3番のドライバ